

検討項目	検討内容	部会でのご意見	検討結果
<p>第2章 現状と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の現状と課題</li> <li>・自治会の現状と課題</li> <li>・市民公益活動団体の現状と課題</li> <li>・職員の現状と課題</li> </ul>	<p><b>【市】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代の転出者が多い⇒働く場所が少ない</li> <li>・様々な公益活動団体がさまざまな分野において活発に活動を行っている</li> <li>・イベント等の周知は広報誌等を利用している⇒一部の人間にしか情報が行き届かない</li> </ul> <p><b>【自治会】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・脱会防止の施策の展開⇒若い世代の参加が少ない</li> <li>・役員の選出が難しい⇒役員の責任が大きい</li> <li>・脱会者が多い⇒自治会加入のメリットが少ない。</li> <li>・イベント実施時には、親子セットで加入率と担い手の両面からアプローチ</li> <li>・加入促進の特効薬なし⇒地道に進めていく必要がある</li> <li>・他市町村ではネットを利用して負担軽減（会議時間等）⇒議論を行っていく必要もある</li> <li>・形を変化させ、柔軟な対応が必要（若い世代が参加しやすい環境）</li> </ul>	<p><b>【市】</b></p> <p>&lt;現状&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆本市の人口は、平成15年1月の60,015人をピークに減少傾向に転じています。内訳を見てみると、平成12年を境に<u>転入や転出という社会的要因による増減</u>が先行して転出超過となり、平成17年以降は、<u>出生や死亡という自然的要因による増減</u>も減少に転じていることから、人口減少が加速化しています。</li> <li>◆また、本市における高齢化率は、平成29年で30.4%と約3.5人に1人が高齢者（65歳以上）となっており、令和6年には、35%を超えると予測されます。</li> <li>◆さらに財政状況では、少子高齢化、人口減少、公共施設、インフラの老朽化が進行する中、歳入については、主要な市税収入、地方交付税等の大幅な増額が見込めない状況です。一方、歳出は、人件費等は概ね横ばいであるものの、<u>福祉・健康保険料、介護保険料などの社会保障関連経費は一貫して増加</u>しています。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆このような中、<u>転出にて減少した人口のUターン、都市部からの移住定住のUターンなどを促進するとともに、市民全員が阪南市民であることに自信を持ち、つながることで、若年層の転出超過に歯止めを掛ける必要</u>があります。</li> <li>◆また、市内には市民公益活動団体等が数多く存在し、さまざまな分野において活発に活動されており、地域づくりのパートナーとしてますます公民をはじめとした様々な協働が求められます。</li> <li>◆さまざまな情報を各主体と共有することやボランティアだけでなく、経済的にも自立し活動できる仕組みを構築する必要があります。</li> </ul> <p><b>【自治会】</b></p> <p>&lt;現状&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆自分たちのまちは自分たちできれいにする主体的な考えのもと、例年春に市内一斉の美化作業を実施、地域のコミュニティ形成や地域での親交を深めるため、夏祭りや防災訓練などを実施しています。</li> <li>◆しかしながら、会議への出席による時間的拘束や、イベントについても若い世代の参加率が少ない状況にあり、担い手不足に苦慮しているところです。</li> <li>◆<u>また、加えて地域によっては住民の高齢化率の高い地域もあり、自治会の役員の負担による自治会脱会も見受けられます。</u></li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆そのような中、他市町村においては、若い世代の参加を促すため、インターネットを利用した会議の開催や、イベント実施の際には親子で参加できるイベントを開催したりと、自治会加入率と担い手の両面から取り組みを進めている事例もあり、これまでの形に捉われない柔軟な発想と取り組みが必要となってきます。</li> <li>◆また、自治会の取り巻く環境を踏まえたうえで、役員の負担軽減を検討していくなど、<u>脱会を防ぐための取り組みも必要</u>となっています。</li> <li>◆<u>高齢化率の高い地域においては、高齢になっても自治会に加入したり、イベントに参加したいと思えるような運営方法も求められます。</u></li> </ul>

# 検討まとめ

検討項目	検討内容	部会でのご意見	検討結果
		<p><b>【市民公益活動団体】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民公益活動団体数が多く活動は活発⇒団体同士のつながりが希薄</li> <li>・イベントの開催⇒会員数の不足、担い手の不足</li> <li>・情報発信をしたいと思っている。⇒発信方法がわからない。(情報等の不足)</li> <li>・拠点が無い。</li> <li>・登録団体以外も多く存在している。</li> </ul> <p><b>※読みやすい！</b></p> <p><b>分かりやすい！</b></p> <p><b>誰にでも見やすい指針の作成が大切！</b></p>	<p><b>【市民公益活動団体】</b></p> <p>&lt;現状&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆本市には、市民公益活動団体の登録制度があり、多くの団体が登録しています。それぞれの市民公益活動団体は、活発に活動を行っており、様々なイベントを開催しています。また、団体登録は行っていませんが、活動を行っている活動団体も多く存在しています。</li> <li>◆<u>また、阪南市市民活動センターを利用することで、特定非営利活動法人（NPO法人）などの組織の立ち上げができるなど、市民公益活動が生まれやすい環境があり、その活動の支援を行える体制が整っています。</u></li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆しかしながら、多くのイベントが各団体で行われているものの、団体同士と一緒にイベントを行うということが少ない状況にあります。そのイベントの周知方法についてもチラシの作成・配布のみであり、情報発信が少ないため、様々な媒体を利用した情報発信が必要となってきます。</li> <li>◆また、新たな会員の獲得に苦慮している団体が多く、立ち上がっている活動の継続や発展が十分に進んでいない状況にあります。</li> <li>◆<u>活動団体には、阪南市市民活動センターを知らない団体も多く、活動や運営疑問など、気軽に相談できる場所としての認知度が求められます。</u></li> </ul> <p><u>※市民公益活動団体・・・営利、政治、宗教活動を目的とせず、社会全体の利益増進のため、自発的な市民活動を行っている団体</u></p> <p><b>【職員】</b></p> <p>&lt;現状&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆市役所の各課に1名市民協働庁内推進委員として配置して、協働についての知識や経験を深めるための研修を実施しています。なお、研修については、講座だけでなく市内で実際に活動されている活動団体の現場に伺い、体験を行う現場視察研修も取り入れています。</li> <li>◆市民協働庁内推進委員においては、研修で知り得た知識等を課内で共有し、組織における協働に対する意識向上を図っています。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆普段の業務において、NPO法人や市民公益活動団体と関わる機会が無い部署もあり、関わる機会を創出するような仕組み作りが求められます。</li> <li>◆また、職員によっては、協働を行うことにより、業務量の増加につながるのではというネガティブな意識もあり、意識改革も必要となっています。</li> <li>◆このような中、市民協働庁内推進委員については各課1名となっていることから、課内や組織全体への波及効果を踏まえると、市民協働庁内推進委員だけでなく、他の職員に対しても更なる協働への関わりが求められます。</li> </ul>

## 検討まとめ

検討項目	検討内容	部会でのご意見	検討結果
第3章 目指すべき 理想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協働の定義、考え方</li> <li>・ 協働の原則</li> <li>・ 協働の担い手、パートナー</li> <li>・ 協働のカタチ</li> </ul>	<p>【協働の定義、考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ まずは、情報交換や発信などを行うことから協働が進んでいく。</li> <li>・ 阪南市のキャッチフレーズの「ともにさかそう、笑顔とお互いさまのまち、阪南」は協働にも合っている。</li> <li>・ 高齢者等を支える網の目（ネットワーク）が非常に細くなっている。</li> <li>・ 市民が主体な活動行い、その活動をサポートする機関が必要。</li> <li>・ 人や活動がつながったり、つなぐということも大切。</li> <li>・ つながることで、困りごとに対して助け合いが生まれる。</li> </ul> <p>【協働の原則】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報共有など、知ることが無いとつながることもできない。</li> <li>・ 助け合いが生まれるということは、相互補完につながると思う。</li> <li>・ 協働を進めていくためには、協働のパートナー同士は対等でなければならない。</li> <li>・ 相互理解も言い換えると「おたがいさま」ということではないか。</li> <li>・ 自主性や自立性も必要。また、自立性には「立つ」と「律する」2つの意味があり、言葉をどう選ぶかも大切。</li> </ul>	<p>【協働の定義、考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 阪南市における協働とは、「市民が主体的に活動団体や事業者、企業等及び行政それぞれがお互いの持つ特性を生かし、支えあうパートナーとして、住み続けられるまちづくりを行っていく」ことです。</li> <li>◆ それらを促進するため、様々な活動を通じて、人や活動が「つなぐ・つながり」を生み出します。</li> <li>◆ そのつながりが、きめ細かな「網の目（ネットワーク）」を創造し、お互いさまのまちづくりにつながっていきます。</li> </ul> <p>【協働の原則】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 一人で悩まず、情報の発信を行っていきよう！（情報共有）  <span style="color: red;">困っていることを抱え込まずに、情報を発信していくことにより、困りごとを知る人たちが増え、解決に向けて一緒に進んでいくことができます。</span></li> <li>◆ 困りごとは、助け合おう！（相互補完）  <span style="color: red;">困っていることや求めていることを情報共有することにより、多様な解決策が生まれ課題解決につながります。</span></li> <li>◆ 同じ視線で、話し合おう！（対等な関係）  <span style="color: red;">協働を行っていく上で、主従関係では良い活動は生まれなため、必ず同じ立場で意見が言える関係が大切です。</span></li> <li>◆ 長所、短所を認め合おう！（相互理解）  <span style="color: red;">それぞれの主体には、得意なことと苦手なことがあることをしっかり認識して取り組むことにより、自分たちに似合った活動ができます。</span></li> <li>◆ 一方に依存することなく、互いの言動を尊重しよう！（自主性・自立性の尊重）  <span style="color: red;">相手ばかりに頼ることなく自ら主体的に行動し、取り組みについての意見交換も行っていくことで、活動が更に充実していきます。</span></li> <li>◆ 互いのルールを守り、行動しよう！（自律性の尊重）  <span style="color: red;">自分たちで決めたルールはしっかり守り、相手に自分のルールを押し付けるようなことはせず、取り組んでいくことで、つながりが深まります。</span></li> </ul>



## 検討まとめ

検討項目	検討内容	部会でのご意見	検討結果
第4章 協働によって期待される効果、成果	協働によって期待される効果、成果	<b>【協働によって期待される効果、成果】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 困りごとが解決する。</li> <li>・ 住みよい環境づくりが、きれいなまちを作っていく。</li> <li>・ 互助（団体内での助け合い）</li> <li>・ できることから始めることが大切。</li> <li>・ 楽しいまち、明るいまち</li> <li>・ 住み続けたいと思えるまち</li> <li>・ 困りごとの解決が早い</li> <li>・ 連携、交流</li> <li>・ 輪（和）が広がる</li> <li>・ 自分たちのまちを自分たちで育てるという</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自分たちのまちは、自分たちで「つくり」・「そだて」・「まもる」という主体的な活動が行われる ⇒地域内の困りごとが解決でき、住みやすいまちになります。</li> <li>◆地域内や団体内において、気軽に相談でき、困りごとを共有する。（多様な人の関り） ⇒様々な解決方法が生まれ、困りごとの共有や解決スピードが速くなります。</li> <li>◆自分たちがまちづくりの主役になる ⇒できることから楽しみながら活動できます。</li> <li>◆様々な団体（主体）が情報を発信し合う ⇒つながり（交流）が生まれ、輪（和）が生まれます。</li> </ul>

検討項目	検討内容	部会でのご意見	検討結果
第5章 取り組み	協働を進める取り組み	<b>【協働を進める取り組み】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ノウハウを有している人材をどのようにして巻き込むかが大事。</li> <li>・ 講座を開催しても、参加者が少ない。</li> <li>・ 相談場所があることを知ってもらう必要があるとともに、周知を行う場所を新たに発掘していく必要もある。</li> <li>・ 様々な団体（主体）が集まれる場所が必要。</li> <li>・ 今の世の中、SNSを活用しての情報発信が多いが、SNSの利用方法が難しい。活用できれば、情報発信や収集に役立つ。</li> <li>・ 課題の共有ができてはいるが、課題解決までの道が見えない。</li> <li>・ 活動を行いたい人をしっかり支援する仕組みも大事。</li> <li>・ 行政（公）だけでなく、市民等（民側）の取り組みも必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆知っていることや得意なことを発揮する（してもらい）場を作っていこう。 自身や周りの人たちが経験やノウハウを生かしてさまざまな活動を行ったり、また、参加しやすくするためには、それを発揮できる環境作りが大切です。</li> <li>◆最大の情報発信の手段の一つである口コミを広げよう。 自分の周りへ情報を発信することにより、そこから更に人から人へ情報が広がっていきます。まずは対話を始めることからスタートです。</li> <li>◆広く情報発信・収集を行っていくため、SNSも学び活用していこう。 いつでもどこでも最新の情報を、一度に多くの人に伝えることができるSNS。使い方を知りどんどん活用して慣れると、情報発信力が伸びていきます。</li> <li>◆課題解決に向け気軽に相談できる場所を、伝えていこう。知ってもらおう。 いつでも相談できる場所を多くの人に知ってもらうことで、誰でも気軽に利用でき、困っていることを抱え込まない環境が生まれます。それが課題解決の糸口につながります。</li> <li>◆活動を行いたい人を手助けする仕組みや行いやすい環境を作っていこう。 これから活動をしようとしている人や今、活動を行っている人が新たな取り組みを行うとき、活動を応援する仕組みや環境があることで、多くの協働が生まれやすくなります。</li> <li>◆阪南市のまちづくりをみんなが我が事として捉えていこう。 まちづくりには、行政だけで担えるものでなく、市民等だけでも出来ないため、他人事と思わず、一人一人が協働の担い手となる事が大切です。</li> </ul>

## 検討まとめ

